

うすだ 薄田さとし

後援会だより 第70号

2024年4月2日発行 第70号

発行責任者：薄田さとし後援会

後援会長：瀬賀 和之

発行所：薄田さとし後援会事務所

住所：胎内市倉敷町2番28号

TEL:0254-44-7500

報告内容

- ご挨拶
- 2024年一般会計予算議決
- 会派代表質問
- 写真で振り返る「薄田市議の活動記録」



ご挨拶

後援会の皆さんこんにちは、お元気でお過ごしのことと存じます。

皆さんにおかれましては平素より、後援会活動ならびに議員活動に対し、ご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

元日に石川県能登地方を震源とするマグニチュード 7.6、震度 7 の大地震が発生しました。さらに翌日には、羽田空港で日航機と海上保安機が衝突炎上する事故が発生し、波乱の年明けとなりました。被災された方々には心からお見舞いとお悔やみを申し上げますとともに、今も復旧復興に懸命に日夜携わっている皆様に対しても感謝と敬意を申し上げます。

国政においては自民党派閥による組織的な裏金問題が発覚し、実態解明が中々進まない現状を受けて、国民からは深刻な政治不信が進んでおります。一刻も早い真相究明と再発防止が望まれます。3月10日に新潟市で国民民主党の県連総会が開催されました。議員団を代表して挨拶させて頂きましたが、その中で自分自身への戒めも含めて、「県民、市民のために、正直で、公正で、真心のある政治を貫きます」と申し上げます。初心を忘れず今後とも皆さんのための政治を貫いて参りたいと思います。



胎内市 2024 年度の一般会計予算が3月15日、議会最終日に議決されました。総額 198 億 7,700 万円、前年度比は額で 15 億 9,300 万円、率で 8.7%のプラスという合併後最大の予算となりました。今年度も昨年に引き続き中条小学校校舎改築工事、防災行政無線更新工事など大型工事を予定しております。また、会派を代表いたしまして会派代表質問に立ちました。詳細を後ページに掲載いたしますのでご覧ください。

来年は本市が市政施行 20 年の節目を迎えます。我々市議会議員は、胎内市民が未来に向かって住み続けたいまちを創り続けることが目標であり願いでもあります。今後も市民の思いを聴きながらそれに向かって政策提言し、実現に向かって活動を進めて参ります。

どうぞ引き続き皆様のご支援とご協力をお願いし、併せて後援会の皆さんの益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年度の挨拶とさせていただきます。

胎内市議会議員 薄田 さとし

2024年度一般会計当初予算が全会一致で議決される

3月15日、第1回定例議会最終日、総額198億7,700万円(過去最高額)の2024年度の一般会計当初予算が満場一致で可決。なお、前年度比では額で15億9,300万円、率で8.7%のプラス。

3月6日会派代表質問に薄田市議立つ

YouTubeにもアップされております。

こちらからご覧ください。→



◇将来に向けて生産年齢の減少が予測されるが、今後の持続可能なまちづくりについて

薄田市議の質問要旨	井畑市長の答弁要旨
<p>1 将来の人口減少の対応について</p> <p>将来の人口減少・少子高齢化に対する認識とその課題。先日厚生労働省の外郭団体から2050年生の生産年齢人口予想が発表され、本市は48.2%減少すると予測が出た。この内容も踏まえ、今後市長はどう対応していくのか。</p>	<p>人口減少、少子高齢化の課題は本市だけではなく、国を挙げて長い時間軸で解決していく内容と捉えている。生産年齢人口が減少し、社会保障を受ける高齢世代が増加してきており深刻な状況であると認識している。今後、結婚や出産、育児などのセミナーなどの開催や、中学生たちに赤ちゃんに触れる機会を提供し、子どもの存在を自然に感じられる企画も検討したい。また、移住促進や観光振興策で交流人口や関係人口を増やすことで人口減少・少子高齢化社会の克服に努めたい。</p>
<p>2 まちづくりのプロジェクトについて</p> <p>本市ではNPO活動家や若手活動家が活発になってきたが市と連携してまちづくりを進めてはどうか。</p>	<p>スポーツ施設の管理運営、ひきこもり支援等の活動、中山間地域の地域資源を活用した取り組みをする市民グループが増え、様々な分野で市との協働の取組も展開されている。今後も行政側と各団体との間で対話を重ねながら、それぞれの持つ力を生かした取り組みを推進したい。</p>
<p>3 民・産・官・学の連携した持続可能なまちづくりについて</p> <p>市民、企業、行政、大学の連携で新しいサービスや地域社会の仕組みづくりの持続可能なまちづくりを進めてはどうか。</p>	<p>地域課題の解決に向けて、企業や高校、大学の持つノウハウを市政に生かすために包括連携協定、防災分野には災害時応援協定を締結し進めてきた。新潟食料農業大学には、三八市への出店やイタリア野菜の実証栽培など連携していただき、地域の活力になっていただいております。持続可能でより良い地域づくりに繋がっている。</p>

◇産業振興と地域産業支援について

薄田市議の質問要旨	井畑市長の答弁要旨
<p>1 農業・食料政策について</p> <p>① 昨年的高温・渇水で減収減益した農家の救済と今後も予測される地球温暖化に対する支援策について</p> <p>② 本市の農業の将来を担う後継者の育成と自立できる農業者への支援策について</p> <p>③ ふるさと納税の返礼品として人気の高いのが圧倒的に新潟米であるが、今後の次世代を担う商品開発の将来展望は。</p>	<p>① JAが行っている融資である緊急農業経営安定資金の2年分保証料相当額を補助している。今後、大学や専門家などの様々な知見を基に、必要な技術や高温に強い品種への転換に対して支援していく。</p> <p>② 現在策定を進めている地域計画において、農地の集積、集約や担い手の確保、育成方法などといった目指すべき将来の農地利用を明確にし、農業経営のしやすい環境を整え、持続可能な農業の推進を図っていく。</p> <p>③ 寄付者にとって希少価値や地域と結びついた特産品や逸品も選択肢の一つと捉えている。銚江集落のキクラゲは国産品として希少性が高い。農業者や大学と連携して新たな作物や加工品の開発を行っており、今後その中から特産品が生まれることを期待したい。</p>
<p>2 洋上風力発電事業について</p> <p>① 洋上風力発電事業関連の事業誘致、雇用創出の将来展望について</p>	<p>① 市内中小企業事業者に対して、この事業機会を十分に生かすことができるよう、自ら学び、選ばれる事業体となっていただきたい。県や商工会と連携して参画を希望する事業者の情報収集。市外に本社を有する事業者に対し新たな事業機会と捉えていただくことを説明し、協議していただいている。</p>



②洋上風力発電事業の出損金を活用してのまちづくりの展望について。	②出損金は発電事業者が任意に行うものであり、市としては出損金抛出に感謝し、地域振興に資するように発電事業者と連携しながら、出損金を有効に活用していくことが求められている。
----------------------------------	---

◇防災減災対策について

薄田市議の質問要旨	井畑市長の答弁要旨
1 本市において直下型の震度6以上の地震が発生した場合の想定される被害状況について	櫛形山脈断層帯が震源となり、最大規模はマグニチュード6.4と予想されます。令和4年に県が想定した数字は、地震による揺れと液状化により、建物被害は全壊で1,258棟、半壊で4,918棟、人的被害で死者80人、負傷者1,050人が推定されている。
2 本市の住宅・建築物耐震化促進計画の状況と進捗状況について	昭和56年6月に施行された新耐震基準を満たしている住宅・建物は令和4年度末で約83.4%、同計画では、令和12年度までにおおむね完了することを目標に定めている。無料の耐震診断をはじめ、耐震改修工事等に対する補助を行い、耐震化の啓蒙に努めていく。
3 ライフラインの整備について 主要幹線道路や橋梁、上下水道管のインフラの耐震化の現状と併せて老朽化に対応した将来構想について	能登半島地震で主要幹線道路や上下水道管などの寸断が被災地支援の大きな障害になったことが明らかになり、インフラについては災害時を踏まえた整備が必要になってくると認識している。今後優先順位を定めて必要な補修を行っていく。

◇子育て・教育・人づくりについて

薄田市議の質問要旨	井畑市長の答弁要旨
1 子育て支援について 新年度に新たに盛り込まれた子育て支援事業と取り組みについて、今後の課題は。	新たに1ヶ月児健康診査時に費用助成、子育て時の親子絆づくり支援、生活困窮家庭に就園時支援を行うもので入園準備経費や給食費を助成する取り組み。胎内市の宝である子どもたちが安心して健やかに育ち、また産み育てることを今後も計画策定する。
2 中学校の適正規模に向けた取り組みについて 昨年から中学校再編検討委員会が開催され、議会はじめ市民や関係者に説明し合意形成を図る必要があり、今後の進め方と概略スケジュールは。	再編検討委員会で検討を重ね、望ましい教育環境整備内容を議会はじめ市民に示していく。その後ハイブリットコメントで広く意見を頂いて、令和6年度中に方針を定め、再編に向けた準備を進めていく。
3 市民の交流や学習の拠点である生涯学習センターについて 生涯学習を通じてあらゆる世代が互いに学び合い、教え合い、人がつながる生涯学習の拠点となる施設の必要性は、以前より議会から提案し執行部とも共有し合意形成を図ってきた。急激な高齢化や人口減少社会を迎える状況で、持続可能なまちづくりを目指し、市民が交流できる拠点の建設が望まれているがその計画は。	建設に向けて検討してきたが、議会や市民へ事業化に向けた具体的な概要を示すことが出来ていない状況。生涯学習施設に対する市民ニーズは極めて大きいと捉えており、これまで以上に検討を進めていく。



写真で振り返る「薄田市議の活動記録」 2024年1～3月



胎内市武道鏡開き 初稽古



授業(胎内市まちづくりの意見交換)



UAゼンセン県支部旗開き



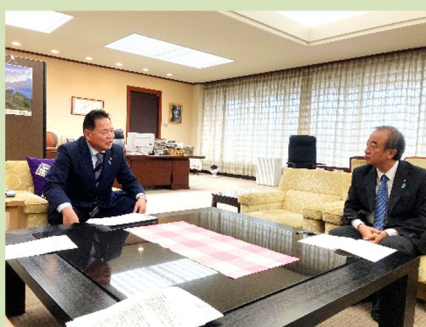
井畑市長へ連合胎内要望書提出



会派と執行部との意見交換会



江尻集落しめ縄作り



花角知事へ政策要望書提出



会派代表質問に立つ



国民民主党県連総会

今後ともみなさまのご支援を
よろしくおねがひします!!

